

北陸新幹線延伸開業から14日で半年。東京や長野と直結され、新たに生まれた交流の最新事情と課題を探る。

今月6日、富山市の県総合運動公園陸上競技場で行われたサッカークラッシュ・カタレ富山とAC長野パルセイロの試合。スタンドには、新幹線を使った日帰りツアーで長野からやってきた、パルセイロサポーター約30人の姿があった。

ツアーを企画したのは、NPO法人「富山スポーツコミュニケーションズ」。参加者は、午後6時からの試合を観戦後、富山市内の居酒屋で富山湾の海の幸や地酒を満喫。富山発午後9時58分の長野行き最終「はくたか」で帰路についた。

ツアー後のアンケートでは、料理、地酒が良かったです。「おもてなしが素晴らしい」といった感想が寄せられ、回答者全員が、また富山に來たいと答えた。同法人の佐伯仁史理事長は「サッカーと富山の食文化、そして北陸新幹線という三つの存在価値を高めることで、新しい人の流れを作りたい」と意気込む。

北アルプスを挟んで「近くて遠い」と呼ばれてきた富山・長野両

## 新幹線半年 交流新時代

# 「近い」長野 双方向で商機

県。新幹線延伸開業に伴う時間短縮が新たな商機を生み、観光分野で双方が誘客合戦を展開している。

富山県は8月上旬、長野県軽井沢町の大型商業施設「プリンスショッピングプラザ」で富山湾の味覚をPRするイベントを開催し

た。内陸県の長野からの近さを意識し、「うまさ、すぐそこ」さかなは富山」というキャッチフレーズを掲げ、法被姿の石井知事自ら、ホテルイカ沖漬けの試食を通行人に勧め、「ぜひ富山に来てください」と笑顔で話しかけた。

富山・長野間は最速型「かがや」と話す。

富山・軽井沢間はこれまで車で約4時間かかっていたが、新幹線「はくたか」で約1時間40分と大幅に短縮した。同ホテルは、これまで挙式件数の6割が首都圏からの利用客だったが、新幹線延伸で北陸の需要を掘り起こせるとみて、昨年8月、富山市石金に営業拠点を相談サロンを開設した。

軽井沢挙式の相談に訪れるカップルは「富山の式場は友人とかぶってしまい、選択肢が少ない」「特別な雰囲気のリゾートで両親に喜んでほしい」といった理由を挙げるケースが多く、サロン担当者は「手応えを感じている」という。

北陸経済研究所(富山市)の藤沢和弘・主任研究員は、「北陸と長野は新幹線によって、突然「近く」になった。人の奪い合いが生じる分野もあるが、同じ経済圏という認識ができれば、今後観光効果も出てくるだろう」と話す。

「魚」と「空港」を売り出す富山側に対し、長野側は「リゾート」を前面に攻勢をかける。

「今まで遠くて断念されるケースが多かった富山は、特にチャン

スが多かった富山は、特にチャン



サッカー観戦と食を楽しむツアーで富山を訪れたAC長野パルセイロのサポーターら(6日、富山駅で)＝NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ提供